

## 143 No. 5: 中華圏からの誘客増へー地域特性見極め本県PR (令和元年7月23日)

UNWTO（国連世界観光機関）の世界観光統計によると、2017年の国際観光客数は前年から7.0%増加し、13億2600万人を記録した。外国人観光客が最も多かったのはフランスで、8691万8千人が訪れている。8178万6千人のスペイン、7586万8千人のアメリカと続いた。

日本は前年から二つ順位を上げ第12位で、2869万1千人の外国人観光客が日本を訪れた。アジアの中では、中国、トルコ、タイに次いで第4位である。



【香港国際旅行展示会の様子】

2018年はさらに増え、日本政府観光局（JNTO）が今年1月に発表した観光統計によると、前年比8.7%増の3119万2千人が日本を訪れている。国は「2020年まで訪日外国人旅行者数4000万人」を目標に掲げており、2018年の3000万人突破は大きな足掛かりといえるだろう。

本県でも2018年の外国人宿泊数は22万3千人（前年比0.6%増）で、過去最高を更新した。

こうした中、県では、本年4月から6月にかけて、上海世界旅行博覧会、マカオ国際旅遊博覧会、香港国際旅行展示会に相次いで出展した。上海および香港では茨城県、群馬県と連携し北関東として、マカオでは東武鉄道と連携してプロモーションを行った。

訪日旅行を十二分に楽しむためあちこち周遊したい中華圏の人々にとって広域でのPRはとても反応が良く、来場者には満足していただくことができた。

6月4日には、杭州で行われたJNTO上海事務所主催の訪日観光セミナーに参加し、栃木県の観光資源を詳しく紹介した。来場した旅行会社の担当者から細かい質問が出されるなど、白熱したものとなった。

香港人や上海人は我々以上に日本のことに詳しい。そのため、「僕のおすすめのレストラン」、「地元の人しか行かない〇〇な場所」など、特別な情報を聞きたがる。逆にマカオ人は東京、大阪といった大都市しか知らない人も少なくないので、地方の魅力を幅広く知りたいようだ。

また、冬のレジャーに関しても、本格的なスキーを好む香港人はコースにうるさく、上海人は雪質にこだわる。氷瀑ツアーのような危険は避ける香港人に対し、上海人は興味津々である。

こうした国・地域の特性を見極め、効果的なプロモーションを展開し、本県が目標として掲げる「2020年までに外国人宿泊数30万人」の実現を目指したい。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。